

日程表・プログラム 第3会場（大会議室R）

| 9:50～10:50 | ポスターP1 | 座長 宇都宮リハビリテーション病院 リヤンド那須 | 青木 克弥 今井 樹 |
|---|---------------------------|--------------------------------|---------------|
| P1-1 健常者における床上動作時の重心加速度変化について | リハビリテーション翼の舎病院 | 宇都木 康広 | |
| P1-2 ヘッドマウントディスプレイによる半側遮蔽画像と半側遮蔽眼鏡を使用し左半側空間無視患者に正中付近へ注意を促した効果の比較 | 栃木県医師会塩原温泉病院 | 溝垣 健一 | |
| P1-3 パーキンソン病患者に対するAirPodsを用いた聴覚刺激の歩行パフォーマンスへの影響 | 国際医療福祉大学病院 | 野澤 拓夢 | |
| P1-4 脳卒中片麻痺患者に対して随意運動介助型電気刺激を用いた起立着座動作反復の効果 -外部Assistモードが歩行能力に及ぼす影響- | 栃木県立リハビリテーションセンター | 大森 建太 | |
| P1-5 運動失調が運動に及ぼす影響について | 石橋総合病院 | 熊倉 康博 | |
| P1-6 COVID-19関連ウイルス性脊髄炎を発症し不全麻痺による歩行障害を呈した症例 | 新上三川病院 | 高子 千里 | |
| P1-7 独歩を獲得した脊髄ヘルニア術後症例の経過報告 | 国際医療福祉大学病院 | 塚原 翔 | |
| P1-8 大腿骨頸部骨折を呈した脳出血後遺症患者に対し短下肢装具を処方しバランス能力が改善した一症例 | 新上三川病院 | 松尾 駿佑 | |
| P1-9 口で動かすジョイステイック～寝たきり混合型脳性麻痺児が電動車いすでの自立移動を獲得するまで～ | 国際医療福祉リハビリテーションセンター なす療育園 | 小笠原 悠人 | |
| P1-10 脳卒中のリハビリテーション～移乗動作の自立と外出支援に向けた取り組み～ | NEW STORY | 横地 翔太 | |

11:00～11:50

ポスターS1

座長

栃木県医師会塩原温泉病院

高野 陽子

小金井中央病院

盛合 彩乃

S1-1 Wallenberg症候群患者の嚥下障害に対する急性期ST介入と機能回復の経過

新小山市民病院

熊倉 智恵美

S1-2 特別養護老人ホームに言語聴覚士が出向し、
胃瘻造設後も楽しみレベルの経口摂取を継続できた症例

国際医療福祉大学病院

小笠原 まなみ

S1-3 経管栄養を導入した呼吸器疾患患者における転帰先に関わる入院前情報の重要性について

那須赤十字病院

田口 里香

S1-4 回復期病院での摂食嚥下障害患者における入退院時の食形態の変化

リハビリテーション翼の舎病院

平野 絵美

S1-5 ADHD児におけるセルフマネジメントスキルを用いた自己制御の獲得

県北児童相談所

宇留野 哲

S1-6 右被殼出血後に人物誤認を呈し残存した一例

リハビリテーション花の舎病院

小島 孝文

S1-7 神経心理学的検査結果の向上を認めたが実車評価にて
不合格となった脳梗塞症例に対する因子の検討

国際医療福祉大学塩谷病院

佐藤 圭太

S1-8 栃木JRAT10周年の歩みと今後の課題

栃木県立リハビリテーションセンター

佐藤 文子

13:00～14:00

ポスターO3

座長

自治医科大学附属病院

永田 玲奈

新上三川病院

岩瀬 直樹

O3-1 脳幹出血患者に対してMALが向上し麻痺側上肢のADL参加が増えた症例

新宇都宮リハビリテーション病院

阿久津 圭

O3-2 急性期脳出血後の麻痺側上肢に対するCI療法の実践と障害受容の変化

新小山市民病院

滝田 実紅

O3-3 注意障害を併発した脳卒中急性期患者に対する修正CI療法の一症例

新小山市民病院

日下部 悠太

O3-4 Mixed Reality デバイスとIADL訓練を併用し自己認識が改善した一症例

栃木県立リハビリテーションセンター

横松 靖子

O3-5 ADOCを活用した意思の尊重と作業の再構築による生活の質の向上

—精神疾患を伴う再梗塞片麻痺患者に対する介入の一例—

新上三川病院

黒澤 彩乃

O3-6 実動作の反復から食事動作の獲得を図った症例

新上三川病院

岩崎 優奈

O3-7 脳梗塞後に運動麻痺と高次脳機能障害へのリハビリテーション

—社会資源の乏しい地域におけるシームレスな運転・復職支援について—

国際医療福祉大学塩谷病院

千吉良 知映

O3-8 急性期病院において片麻痺患者にMELTzを用いた一例

国際医療福祉大学病院

小野 七海

O3-9 失語症を伴う四肢麻痺患者に対するトイレ動作自立支援 —環境調整と認知的配慮を重視した取り組み—

新上三川病院

向谷 颯子

O3-10 妻の介護負担を減らすために排泄動作を獲得した一例

新上三川病院

梅山 真緒

14:00～15:00

ポスターP5

座長

石橋総合病院

鈴木 元気

LC訪問看護ステーション

吉田 優

P5-1 特養高齢者における皮膚水分・油分と細胞外水分比の関連

国際医療福祉大学

遠藤 佳章

P5-2 視神經脊髄炎発症後、重篤な視力低下を呈した一症例～難渋した退院調整～

菅間記念病院

鈴木 淳志

P5-3 児童発達支援事業と保育園の連携を活かしたダウン症児の運動・生活機能向上への取り組み

子どもの発達支援にこつとキッズ

鈴木 達也

P5-4 訪問リハビリテーションにおける低栄養を呈した利用者への理学療法介入

西那須野マロニ工訪問看護ステーション

平岡 潤

P5-5 地域在住高齢者における身長および体重の予測と実測の関係

国際医療福祉大学

石坂 正大

P5-6 回復期リハビリテーション病棟における足台の有無が車いす座位の臀部体圧分布に与える影響

国際医療福祉大学塩谷病院

寺内 佑

P5-7 がん終末期患者の症状回復に伴い理学療法と早期の退院調整により自宅復帰が叶った症例

菅間記念病院

小林 拓真

P5-8 ヴィアレブ導入後1年以上の長期使用が可能であったパーキンソン病の1症例

国際医療福祉大学病院

塩見 誠

P5-9 中等症脳卒中患者が外来リハビリテーションにより杖歩行自立した一症例

菅間記念病院

川崎 裕人

P5-10 都市生活を想定した早期介入が功を奏した頸髄損傷の一例

新上三川病院

福間 優也